

# 委員会 レポート

委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、各委員会は第2回定例会において報告しました。

※内容は要約されています。報告書はホームページでご覧になれます。

## 産業厚生常任委員会 調査報告 交通安全と防犯の取り組みについて

安全・安心な町づくりを目指すための取り組みについて、担当課から説明を受けて調査を実施した。

清水町生活安全推進委員会は、平成17年度に交通安全協会・防犯協会などの団体を統合し、地域安全活動の推進に寄与することを目的として設立され、自主的

な活動を展開している。児童の登下校の安全を見守る交通安全専門員は、人員の確保に苦慮しながら、清水地区では7名が交代で、御影地区では1名が固定で指導を行っている。

新得警察署との連携は、交通安全キャンペーンなどを通じて日頃から意思疎通が図られており、

清水交番は熊牛駐在所との統合により1名が増員され、警察署からのパトロールなどで配慮されている。

民間との連携としては、子どもが緊急時に駆け込める「子ども110番の家」の取り組みを行っている。

委員からは「生活安全推進委員の高齢化が進んでおり、若年層に参加してもらえないような取り組みが必要」「不審者情報が入った場合、



各種団体が行う交通安全キャンペーンなどは、新得警察署と町が協力・連携して行われている

防犯部会への連絡や防犯無線で情報を流すなどの早急な対応が必要」との意見があった。

不審者による子どもへの声かけ、高齢者も

狙った窃盗や詐欺などは住民の身近なところから起きている。被害に遭わないためには、まず一人ひとりの防犯意識を高めることが大切であり、連携の強化が求められる。

事故、犯罪発生時の背景や原因を踏まえ、特に、生活安全推進委員会は重要な役割を果たしていることから、持続的な活動の維持と積極的な活用について、早急な検討が必要である。

能力を伸ばす「0歳からの15年教育」について、南房総市の視察調査を行った。

南房総市の施策体系は教育内容の充実と子育て支援の充実の2本立てで行われており、取り組み方の細部にわたり特色が見られる。

個々の問題を早い段階で把握し、情報の共有化で素早い対応が可能となるよう幼保一体化の推進を積極的に行い、在宅乳幼児にも施設の

スペースを開放するなど学びの土台づくりへの支援を怠らない。

教育の質の向上についても、全国学力テストの結果に左右されることなく、平均を上回ることに安堵感を求めることなく、どこへ行っても通用する学力を、目指して取り組んでいる。

点数のとれる学力を身につけなければ中央では通用しないとの考えから、民間全国レベルの学力テストを利用し、

学習状況を把握・分析して対応を行っている。

また、学校外教育サービス事業として、民間塾講師による土曜スクール、放課後スクールの開講し、子どもの学習環境を確保し、学力、学習意欲の向上並びに個性及び才能の伸長を図っている。

この事業は、学校スペースの利用許可ばかりではなく、利用者負担軽減措置として行政が助成も行っている。



地元食材を活かした和食中心の「日本一おいしいご飯給食」も推進している千葉県南房総市

秋田県、神奈川県、千葉県を視察して、共通で感じたことは、地域の協力和力強いリーダーシップの2点に尽

きる。

本町が今行うべきことは、未来の清水町に對する投資である。これは金銭的な投資ではなく熱意にほかならない。「人」としての苦勞が伴い、急激な変化は現場に混乱を招き、力強いリーダーシップと組織マネジメント力が成否を分ける。

清水町が取り組むべき問題の一つとして全町民が志を持って関わっていく必要がある。

# 委員会 レポート

委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、各委員会は第2回定例会において報告しました。

※内容は要約されています。報告書はホームページでご覧になれます。

## 総務文教常任委員会 調査報告 学校現場における教育活動の状況について

学習指導要領に「各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」と示されていることから、本町での将来を担う子どもたちへの教育支援、保護者への子育て支援等に資するため、町内各学校の取り組み、道外先進地調査（事前研修・事後研修を含む）を行った。

【町内各小・中学校における教育活動】

幼児小での連携は既に取り組んでいたが、一昨年度から小・中学校の連携を強化しており、スムーズに定着してきていることから、中一ギャップ等の懸念は少ないと考える。

教室全体を使った明るい掲示が多く見受けられた。しかし、掲示がほとんどない教室も一部あったので、学校内で調整する必要がある。

また、昨年より取り組んでいるQ・Uテストの採用が御影小学校で行われていないことは、町内に2校しかない小学校において差が生じることになり、中学校2校でも採用している中において引き継ぎにも影響するため、その必要性を十分理解した中で進めていただきたい。

今後は学校間で積極的な交流を持ち、独自性・地域性を大切にしながら、同じ町内にある学校という意識を持って協力して運営されることを期待する。

【学力向上の取り組み】（秋田県五城目町）

全国学力テストで全国平均を大きく上回り、良好な結果を得ている秋田県の学力向上関連事業について、五城目町の視察調査を行った。

テストばかりではなく、各市町村で同様の学力・学習状況調査を行って課題を見つけ、それに基づき授業改善を積極的にを行い、結果の活用が質的向上につながっている。

また、地域の教育支援サポーターが積極的に活動し、きめ細やかな指導が可能となっている。

安心して学習できる環境づくり、思考を促し深める授業づくり、自発的学習を生み出す指導、学校・家庭・地域の強い連携を重点に秋田型スタイルが確立されている。

しかしながら、高校以降においては、その後の進学状況に結びついていないと特段言えず、課題とされている。

現在行われている全国学力テストは、全国的に公表される成果と連動しているとは言いがたいものの、その取り組み方によっては大きな可能性を持っている。

子どもたちが「自分を知る」「社会を知る」「自立する」力を育むための教育事業、また、さまざまな大人たちが子どもたちに関わり、支えることのできる仕組みづくりについて、神奈川県にある「キーパーソン21」の視察調査を行った。

キーパーソン21では、自分自身を肯定的に捉える経験が少ない社会・教育・家庭環境の中で育つ子どもたちに対し、自分の本心、気持ち、素直に向いて、わくわくして動き出さずにはいられない原動力のよ



「夢高く心たくましく学び合う五小の子」が学校教育目標の秋田県五城目小学校を視察

うなものを探し出す自分発見プログラム、社会を知るためのワークシヨッププログラム、自立支援のためのアクシヨンプログラムを開発し、実践している。

また、教育環境に恵まれない子どもたちのあきらめ感を払拭し、自分のやりたいことを考える力、それを実現したいと思う意欲や目的意識を持たせる教育の必要性から、学習支援・居場所づくり事業をも展開する。これは「地域の大人」がサポーターとして学力の底上げだけでなく、子どもたちの未来づくりを支援している。

これらの活動は保護者のニーズに添えるばかりではなく、学校教育にある限界を超える結果を得ることができると思われる。

【幼保小中一貫教育の推進】（千葉県南房総市）

教育委員会を取り組む「地域に誇りと強い思いを持ち、自己の可